

2021 年度研究デザイン 亀山市立井田川小学校

教育大綱 基本方針一

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

学校教育目標

生き生き 笑顔で つながって
～自ら学び つながり
心豊かにたくましく生きる
井田川っ子の育成～

研究主題

つなげる，つながる，高め合う
～授業を通したなかまづくり～

I 研究主題設定の理由

①子どもの実態

子どもたちは、落ち着いて学校生活を過ごしており、決められた課題や漢字練習や計算の反復練習などにも黙々と取り組むことができる。また、与えられた仕事には責任感をもって取り組もうとしたり、困っている子に対しては優しくしたりする子が多い。

しかし、自分で考えて行動することや、課題をよりよく解決しようと話し合ったり考え合ったりする力は十分ではない。「自分だけ、あるいは、自分と仲の良い友達だけ居心地が良ければよい」という雰囲気や、なかまがもつ多様性を尊重できずに固定的画一的な見方をしたり、差別的な言動をしたりする姿が見られたりもする。また、自分の思いをうまく言葉に表して伝えられなかったり、相手の意図する気持ちを汲み取ることができずにトラブルに発展してしまったりすることもある。

②昨年度までの取り組みの成果と課題

昨年度は、『つなげる、つながる、熱くなる～授業を通したなかまづくり～』を研究主題に設定し、学習したことのつながりや、対話を通してつながる力を育てる取り組みをしてきた。子どもたちが学習のつながりや目的を意識できるように、第一次で学習の計画を立てたり、言語活動例を提示したりして見通しをもたせるようにした。また、授業中でのなかまづくりを意識し、推進していくというねらいからサブテーマを設定した。昨年度の成果は、教師が授業の中で子どもたちをつなぐことを意識し、子どもの発言やつぶやきを広げたり、目的を明確にしてペアやグループ活動を行うことができるようになってきたりしたことである。子どもたちもゴールが明確になっていることで意欲をもって学習に取り組み、ペアやグループで発言ができるようになってきた。また、日々の振り返りや言語活動の中で自分の考えを書けるようになってきた。

しかし、自分と他者の考えを比較して聞いたり、他者の発言につなげて意見を述べたりすることができる児童は少なく、自分の考えを広げ深める対話には至っていないと感じる。教師自身も子どもをつなげるための問い返しや効果的な介入の方法に課題があると考える。また、子どもたちの書く文章や話し合い活動の様子から、学習で習った言葉を使うことや心情や情景を表す言葉を使った質の高い文章を書くことには課題があり、語彙力が不足していると感じる場面も多い。

Ⅱ 研究主題について

「つなげる」とは、教師が発問や問い返しの工夫をし、子どもたちをつなげること。また、単元構想を練り、既習内容や他教科、生活体験とつなげることである。子どもたちが自然発生的につながっていくことは難しいと考えるため、まずは、教師が意図をもってつなげていくことをねらいとする。

「つながる」とは、子どもたち一人ひとりを大切に、教師と子どもがつながることである。また、授業を通して自分の思いを伝えたり、なかまの考えを聴いたりして子どもたち同士がつながることである。さらに、地域の施設や人材に学び、地域の方々をつなぐことや教材や先哲の考えとつながることなどが考えられる。様々な対話的な活動を通して、子どもたちが学習活動の中でつなぐことの良さを実感することにより学習意欲の向上をねらいとする。

「高め合う」とは、仲間の姿に刺激を受けて「自分もやってみよう、がんばってみよう」と思えるようになることである。子どもたちが、学習活動の中で、自他の考えを大切に、認め合いながらよりよい課題解決方法を考えることができる、解決する喜びを得ることをねらいとする。また、教職員同士も日々の授業や研修によって高め合う姿を目指していくことである。

授業の中でめざす姿

- ・自分と他者の考えを比較して聞き、共通点や相違点について話し合っ高め合う。
- ・子どもたちが互いの良さや頑張りを認め合い高め合う。
- ・話し合ったことをもとにして課題に取り組んだり、解決しようとしたりする。
- ・なかまの意見をふまえた振り返りを書き、自分の考えの変容や確立をさせる。

学校教育目標

めざす子どもの姿

- ・学び合い、想いを伝え合う子ども
- ・認め合い、励まし合い、思いやりのある子ども

「授業を通したなかまづくり」

今年度も授業を通したなかまづくりに重点を置いて取り組んでいく。学校生活の中の大半を占める授業においてなかまづくりを進めていくことは、子どもたちが安心・安全に学校生活を送っていくために重要なことであるといえる。なかまづくりによって学級が安心して学ぶことのできる場所になれば、学ぶ意欲も向上し、学力の向上につながっていくと考えられる。また、学力が向上すると、自己肯定感や自己有用感も高まりよりよい仲間づくりにつながると考えられる。本校の児童の実態からも、子どもたちが自分の考えも相手の考えも大切に学び合い、高め合いながら、他者とつながり合っ課題を解決することに喜びを見出すことができる経験を積み上げていく必要があると考える。

Ⅲ 研究領域

国語科 生活単元学習

Ⅳ 研究構想図

亀山市 教育大綱

学校教育目標 生き生き 笑顔で つながって
～自ら学び つながり 心豊かにたくましく生きる 井田川っ子の育成

本校研究主題

つなげる, つながる, 高め合う
～授業を通したなかまづくり～

中部中学校区研究主題

主体的な学びと対話的な活動のある授業づくり
～学びをつなぎ、高め合う子の育成～

学力の向上

学習意欲の向上

なかまづくり

授業づくり

学習環境づくり

安心できる
環境づくり

教職員研修の推進

子どもの実態把握

V 具体的な取り組み

(1) 授業づくり

- ・つけたい力を明確にした単元構想
- ・つけたい力に応じた言語活動の設定
- ・子どもの意欲を高める教材提示や導入
- ・めあての提示とめあてに対応したふり返りの徹底
- ・児童の思考時間を確保できるタイムマネジメント
- ・個人解決とペアやグループで解決する場の設定
- ・子どもの思考内容を把握するためのノート指導や机間指導の工夫
- ・子どもたちの発言を整理し、つなげるためのネームマグネットの活用
- ・本時での学習の流れが分かる板書
- ・次時、次単元へとつなぐことができる評価
- ・子どもの学びの成果や課題が分かる単元のふりかえり
- ・学習成果物の掲示
- ・研修会やOJTによる教員の指導力向上
- ・子どもの発言をつなぐ問い返しの工夫
- ・発達段階に応じためざす対話の姿の確立
- ・各種テストの結果分析と指導への反映

(2) 学習環境づくり

- ・「聴く・語る」「声のものさし」「ことばの宝箱」の掲示と活用
- ・個別の支援方法の確立・・・保護者との情報共有、補充学習、井田っ子スマイルとの連携
- ・国語辞典の活用
- ・読書活動の推進と学校図書館の計画的利用
- ・ICT機器の有効活用
- ・家庭学習の定着・・・学習の手引きやノートの手本の配付、定期的な確認
- ・「ちりつもノート」の活用と掲示
- ・チャレンジプリントの取り組み
- ・各種プリント教材（学-Viva、東書、わかる・できる など）の活用
- ・学習規律表の定期的な見直しと指導内容の共通理解

(3) 安心できる環境づくり

- ・話す、聴くルールの徹底
- ・互いの違いを認め合い、受け止め合える集団作り
- ・マイノートの活用
- ・教育相談、家庭訪問の実施
- ・道徳科の授業の充実
- ・学年人権集会、全校人権集会を中心に据えた人権教育の推進
- ・「見つめる子」を設定したなかまづくりの取り組みと検証
- ・QUアンケート、人権アンケートの実施と分析、情報交換
- ・生活ルールの指導統一